

ダイコン新品種「優太」の 特性と栽培のポイント

雪印種苗(株) 千葉研究農場

松井 誠 二

1 はじめに

秋冬ダイコンは根の生育期間が厳寒期にあたることから、冬の気候が温暖な地域に産地が集中し、真冬でも新鮮な青首ダイコンの大量生産が行われています(表1.2参照)。

ところで、秋冬ダイコンに求められる品種特性は一般の秋播き品種とは幾分異なり、また、適応品種もごく少ないのが現状です。

このたび、弊社より揃い性と品質が優れる暖地向け秋冬ダイコン『優太』を新発表しましたので、ご紹介いたします。

2 秋冬ダイコン『優太』の特性(表3.4参照)

—揃い性と品質が優れる秋冬青首ダイコン—

表1 秋冬ダイコンの出荷量(平成3年東京市場出荷分)

産地	12月	1月	2月
千葉県	9,939 t	3,375 t	3,495 t
神奈川県	4,125	7,823	7,409
徳島県	1,192	1,336	1,162
静岡県		1,516	1,569
上位4県の市場占有率(%)	85.3	97.1	96.1

表2 秋冬ダイコンの出荷量(平成3年大阪市場出荷分)

産地	12月	1月	2月
徳島県	2,945 t	2,880 t	3,016 t
和歌山県	1,000	916	604
上位2県の市場占有率(%)	64.2	84.4	86.6

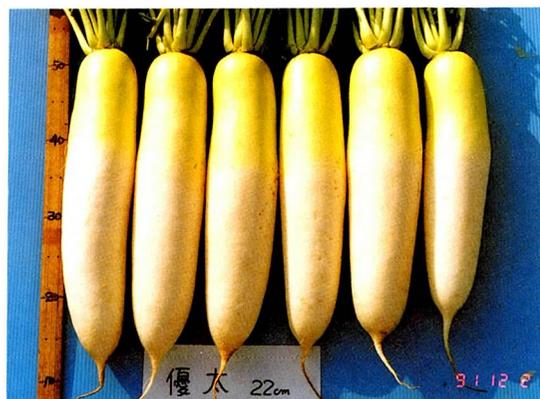


写真1 『優太』の生育特性。
根長・根形の揃い優れ、秀品率が高い

① 根長・根形の揃いが抜群 (写真1参照)

秋冬ダイコンは低温に向かった生育になるため、根は短く、揃いが悪くなりやすいですが、優太は根長は35~39cmの長めに極めて良く揃い、根形も尻つまりの良い総太り型に良く揃います。

② 青首が鮮明

青首は濃緑色で、特に低温期での着色が優れるのが特徴です。冬出しの青首ダイコンとして最適です。

③ 美しい肌

青首と白い肌のコントラストが美しい。肌は光沢がありきれいです。

④ 草勢がおとなしい

秋冬ダイコンは栽培期間が長く、特に肥沃な条件で葉がちになりやすいのが問題ですが、優太は濃緑立性の中葉で作りやすいため、根の生育は極めてスムーズです。

秀品率低下の要因である首の汚れや曲がり根の

表3 『優太』の生育特性 (雪印種苗・千葉研究農場)

品 種 名	根長	根径	根重	揃い	尻つまり	青首	す入り
	(cm)	(cm)	(kg)	(9~1)	(9~1)	(9~1)	(9~1)

【平成元年9月20日播種, 12月13日調査(84日目), マルチ栽培】

優 太	32.3	7.7	1.45	7.5	7.0	7.0	7.0
青さかり	32.6	7.3	1.39	7.5	7.0	8.0	7.0
耐病総太り	33.3	7.1	1.30	6.5	6.5	7.0	7.5

【平成2年9月19日播種, 12月10日調査(82日目), マルチ栽培】

優 太	42.2	8.1	2.04	7.5	7.0	7.0	7.0
青さかり	41.2	7.7	2.06	7.5	7.0	8.0	6.0
耐病総太り	43.7	7.5	1.98	7.0	6.0	7.0	8.0

〈基準〉揃い、尻つまり：9極良～1極不良、青首：9極濃緑～1白、す入り：9無～1基多

表4 『優太』の現地試作結果 (神奈川県横須賀農業改良普及所)

品 種 名	根長		根径		出荷重	出荷規格						秀品率 (%)
	上部	下部	上部	下部		4L	3L	2L	L	M	S	
	(cm)	(cm)	(cm)	(cm)	(kg)	%						(%)

【平成元年9月21日播種, 1月18日調査(119日目), 露地栽培, 三浦市】

優 太	37.0	7.4	7.3	1.64	10	45	35	10	0	0	85
青さかり	36.0	7.6	7.1	1.76	30	35	25	5	5	0	45
耐病総太り	37.0	7.6	6.7	1.74	30	30	20	5	10	5	75

発生はほとんどありません。

⑤ 生育

低温肥大性が良好で, 年内～冬出しに最適です。特に, 播き遅れた場合でも年内出しが可能です。

⑥ す入り

す入りは安定して遅く, 2L～3L出荷でもほとんど問題になりません。

⑦ 肉質

肉質は水々しいしゃり質で, 甘味があり食味は優れます。

⑧ 耐寒性

葉と青首の耐寒性は一般の秋ダイコンより強く, 暖地沿岸部の露地栽培と暖地のトンネルまたはべたがけ栽培の1～2月出しに最適です。

⑨ 抽苔性

一般に, 年内～2月下旬出しで抽苔の心配はありません。

3 『優太』の適作型と栽培のポイント

(●…●：播種期 ■：収穫期)

【暖地向き】

A 9月中下旬播き, 露地栽培→12月どり

9	1	11	12	1	2
---	---	----	----	---	---



○乾燥しやすい条件では, ウイルス防除を徹底し, 間引き後に1回目の薬剤散布を行い, その後, 生育期にもアディオオン, パダン, エルサンなどを散布します。

○施肥はN-P-K=12-12-12 kg/10a程度とします。肥料が流亡しやすい圃場では追肥を行います。

○条間51cm, 株間24cmを基本とします。キャベツ間作の場合は条間をやや広めとします。

B 9月下旬～10月上旬播き, 露地栽培(沿岸部)→1～2月どり (写真2参照)

9	10	11	12	1	2
---	----	----	----	---	---



○施肥は基肥と追肥を行います。基肥はN-P-K=8-8-8 kg/10a程度とし, 11月に追肥としてN-P-K=7-7-7 kg/10a程度行います。2月どりの場合は耐寒性を強化するために年内に再度N-P-K=4-4-4 kg/10aほど追肥すると品質が高まります。

○条間51cm, 株間24～22cmを基本とします。



写真2 『優太』の暖地沿岸部冬どり。追肥の実施が冬どりのポイント

キャベツ間作の場合は条間をやや広めとします。

- 1～2月が厳寒期になる場合はべたがけ被覆が厳寒期の品質保持と肥大促進に効果的です。

C 10月上旬播き、トンネルマルチ栽培→2月どり(写真3、4参照)

9	10	11	12	1	2
---	----	----	----	---	---



- 12月になったらトンネル被覆を始めます。ただし、すそは30～50 cm程度の開放状態とし、霜避け程度とします。低温肥大性を生かして、高品質なダイコンが生産できます。
- マルチは春ダイコンマルチを用い、株間28～27 cmの4～3条マルチがよいです。
- 施肥はN-P-K=15-20-15 kg/10 aを基本とします。



写真3 『優太』の暖地トンネル栽培冬どり。冬どりで青首が鮮明。揃い性も抜群



写真4 『優太』の暖地トンネル栽培。葉は濃緑でおとなしく、栽培容易

ます。

- 10月上旬中ごろの播種は、収穫期がずれ込む場合、抽苔の心配があるため注意して下さい。

D 9月下旬～10月上旬播き、マルチ栽培→

12月～2月どり

9	10	11	12	1	2
---	----	----	----	---	---



- 1月、2月が特に温暖な地域で栽培が可能です。
- 施肥はN-P-K=15-20-15 kg/10 aを基本とします。

4 秋冬ダイコンの栽培と緑肥作物の利用

秋冬ダイコンの品質を高めるためには、健全な土作りがポイントになることから、緑肥作物のすき込みによる地力向上と線虫防除が注目されています。

① 秋冬ダイコンの後作緑肥に『ヘイオーツ』

低温伸長性が優れるため、秋冬ダイコン収穫後に播種ができます(図1参照)。キタネグサレ線虫に顕著な抑制効果を示す対抗植物で、春播き緑肥として最適です。適播種量は散播で10 kg/10 aです。

② 秋冬ダイコンの前作緑肥に『ソイルクリーン』

夏の高温期での生育が旺盛なグラスタイプの緑肥作物で、根菜類の前作に最適です(図2参照)。収量性は6～8 t/10 aと極多収なため、地力向上に役立ち、同時にキタネグサレ線虫の予防にも適します。適播種量はごんべい播種で0.5 kg/10 a。散播で1.5 kg/10 aです。

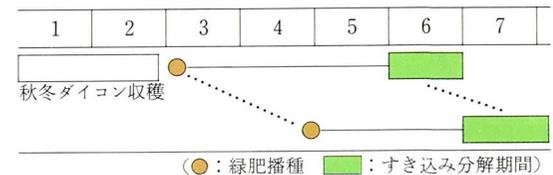


図1 ヘイオーツの秋冬ダイコン後作利用

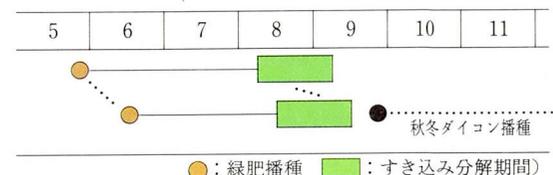


図2 ソイルクリーンの秋冬ダイコン前作利用